

埼玉県立川の博物館におけるクワイエットアワーの試行

県有施設でクワイエットアワーの導入を検討していくに当たり、川の博物館（寄居町）の障害者ウィークイベント（11/11～19）でクワイエットアワーを実施しました。

光や音に過敏な発達障害のある方でも安心して利用できるよう、感覚過敏への配慮を行いました。

イヤーマフ・サングラスの貸出

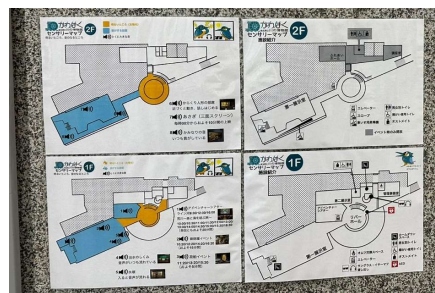
- 音や光が気になる場合に使えるようにイヤーマフとサングラスを用意



※イヤーマフは耳全体を覆うタイプの防音保護具です。

センサーマップの作成

- 大きめの音がする場所や明るい（太陽光が入る）場所など音情報・光情報を表した館内マップの配布・掲示



※左が音情報や光情報、右がトイレなど館内施設を記したマップ。

カームダウン・クールダウン室の設置

- 感情やストレスが高まった時に落ち着くためのスペースを確保（館内2か所に用意）



館内放送の取りやめ等

- 本館の館内放送の取りやめ、タイムテーブルの配布
- 障害者ウィークイベントにおける事前注意のお知らせの配布（タイムテーブル）

第一展示室 イベントタイムテーブル

高さ (11:00)	動物園 (11:50)	動物園 (12:00)
① 10:00	① 10:20	
② 11:00		① 11:20
③ 12:00	② 12:20	② 13:20
④ 13:00	③ 14:20	
⑤ 14:00		③ 15:20
⑥ 15:00	④ 16:20	
⑦ 16:00		

■ 11時以降、三宮スタジアムにて開催の予定です。

取組の結果・課題など

○イベント期間中、イヤーマフとサングラスは数名の利用があった。

○館内放送を取りやめたが、来館者が困っている様子もなく、問題等は生じなかった。

○イベント終了後も、カームダウンスペースを1か所は常時設置し、イヤーマフとサングラスも貸し出しすることとした。また、センサーマップは配布及びインターネット上から閲覧できるようにした。

○何もないところからの準備が大変であった。センサーマップの作成だけでも苦労した。実施する場合は時間をかけて取り組む必要がある。

○このような取組を行うに当たり、発達障害について職員の理解が必要である。「なぜ必要なのか、何に困っているのか」などを理解しないと形だけの取組になってしまう恐れがある。